

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

8/31号

第29節 東京ヴェルディ 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鑄造

8/31 18:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : 東京ヴェルディ 2013 J2 14勝14分14敗 勝ち点42:第13位

1969年に創設された『読売サッカークラブ』は、企業のサッカー部が主流の日本サッカーリーグ(JSL)において異彩を放つ存在だった。JSL優勝5回、天皇杯優勝3回、アジアチャンピオン1回の実績を残し、Jリーグがスタートした際は『ヴェルディ川崎』として2年連続総合優勝。FC岐阜のラモス監督をはじめとして代表選手を数多く擁し、実力・人気ともに間違いなく日本サッカーをリードする存在だった。しかし、その後は徐々に成績は下降線となり、ついに2005シーズンに17位となりJ2降格。2年をJ2で過ごした後にJ1復帰も1年で再降格、以後J2。(吉田鑄造)

台風通過直後に開催された8/10のホーム・愛媛戦では、先制した直後に愛媛に逆転され、さらに2点差をつけられたものの、後半のラスト15分で3得点を叩き出して劇的な逆転勝利を挙げたFC岐阜。この勢いをそのままアウェイ2連戦に持ち込みたいところだったが、8/17群馬戦は後半ロスタイム最後のワンプレーで追いつかれて2-2の引き分けとなり、またしても3連勝は達成できずに終わった。続く8/24福岡戦は、試合開始早々にセットプレーでの失点を取り返せず、そのまま0-1で5試合ぶりに敗戦してしまった。この直近の3試合では、いずれも(残念ながら)攻撃と守備のバランス、あるいは90分を通しての試合のバランスが取れていない。このあたりを改善しないと勝ち点を着実に積み上げることが難しくなってしまうような危機感を感じてしまうが、そのアンバランスさが(良くも悪くも)今年のFC岐阜だと言えるかもしれない。現在のFC岐阜は12位。プレーオフ圏内の6位・大分(勝ち点42)との差は6と、少し離されてしまったがそれでも2連勝で追いつける位置にいるし、6位と18位・熊本(勝ち点32)との差が10と、3試合が経過してもほとんど変わっていないことを考えれば、まだまだ今シーズンのJ2の(中位の)順位争いは混戦模様だ。

さて、その今節の対戦相手は現在20位の東京ヴェルディ。かつてはJリーグ初代王者・日本最強を誇ったチームが今は…と感傷に浸りたいところだが、現在は下位のチーム、しっかりと勝ち点3を積み上げたい。とはいえ、現在も(ユース出身の若手中心ではあるが)油断の出来ないチームでもある。通算対戦成績は2勝2分8敗、6得点22失点。前回対戦した5/3・第11節、「最後の国立」では1-0で勝利したものの、東京Vに勝ったのは、その前節と2012年9/2・第32節のみ。これまでは相性の悪い相手だけに、しっかりと勝ちきりたい。東京Vで最も警戒すべき選手は、5得点を挙げている#9FW常盤聡だろう。身体能力の高い選手なので、DF陣が彼を自由にさせないことが何よりも重要だ。また、東京Vに先日加入した#39アブダは、2012年にFC岐阜が「ストライカー募金」などを充てて獲得した選手、古巣対決に燃えているだろう。一方の岐阜は、何と言っても「ヴェルディのレジェンド」ラモス監督自身が対戦に激しく燃えているだろう。旧友・東京Vの三浦泰年監督との采配対決でもしっかりと勝利することを是非とも期待したい。長いと感じていた全42試合の今シーズンも、いつの間にか残り14試合。今節で(シーズンを3分割すれば)最後の3分の1、終盤戦に入る。ここはしっかりと、我々も勝ち点3を積み上げて、この順位争いを、そして目標としている10位以内を目指して勝ち残っていかなくてはならない。そのためにも落とせない夏休み最後の1戦。今日はイベントも盛りだくさんだが、最後の大事なイベント「万歳四唱」が無くては締まりがない。FC岐阜の勝利で夏のシーズンを締めくくり、そして勢いをつけて終盤戦に突入していこう。(ささたく)

2014J2

■順位表■第28節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	73p	+46	58	12	H●
2	松本	58p	+22	45	23	A●
3	磐田	51p	+14	48	34	H●
4	北九州	48p	+4	32	28	H△
5	岡山	47p	+7	33	26	A● H△
6	大分	42p	-6	32	38	A●
7	福岡	41p	+4	37	33	H● A●
8	京都	40p	+3	40	37	H○
9	千葉	40p	+3	32	29	H△
10	山形	39p	+8	33	25	A●
11	横浜FC	37p	+1	30	27	A○ H●
12	岐阜	36p	-1	41	42	---
13	札幌	35p	-1	30	31	A●
14	水戸	34p	+2	28	26	A●
15	長崎	33p	0	31	31	H△ A○
16	栃木	33p	-7	31	38	H●
17	愛媛	32p	+1	33	32	A△ H○
18	熊本	32p	-10	28	38	A○
19	群馬	31p	-10	28	38	H○ A△
20	東京V	27p	-13	22	35	A○
21	讃岐	17p	-31	25	56	H○ A○
22	富山	10p	-38	16	54	H○

次回HomeGame

第31節 コンサドーレ札幌戦

9/14(日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23

tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

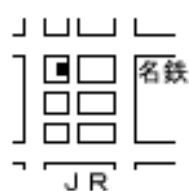
心の花が咲く..

何も無い店だけど..

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@hotmail.co.jp

【第26節】岐阜 4-3 愛媛

●この試合を一言で表すと「クラブ史上最高のバカ試合」。いや、クラブ史上まれに見る大逆転劇なのはもちろん承知している。実に感動的な勝利なのはわかっちゃいる。でも、誤解を恐れずに言うと前記の表現になっちゃうんだよねえ（苦笑）。なにしろ、キックオフから展開された試合内容は、FC岐阜がJリーグに参入してから最高の出来だったんじゃないかな？まさに、史上最高の前半35分間……、35分なのが大問題なワケだ。せめて、できたら前半だけでも続けてくれたらよかったですけど……。あれほど相手を制圧した内容で、どうして得点が決まらないんだ？と歯ぎしりするような流れの中で、ようやく先制した直後のアレ。さらに立て続けの失点。オマケに、後半開始早々のカル〜イPK提供。まあ、英之にとっては正直気の毒なPK判定だったし、おかげで帳尻合わせ？があったような気がする。ただ、「どうして、愛媛とやる時はこうなるの？」あのままだったら、キモチワルイ試合ばかりの愛媛戦でも、ワースト1にランクインする内容になったところ。これらのすべてが、大逆転というイベント発生のための必要条件だった、とは思いたくないし、「結果よければすべてよし」というワケにもいかない。リーグ4位の得点を挙げながら現在の成績なのは失点の多さが原因なのは明白。ことに得点した後の失点が異様に目立つのは早急になんとかしてもらいたいところだ。

それでも、あのPKを決められても、2点差をつけられても膝を屈することなく、最後まで戦い抜いてくれた選手達のおかげであの興奮を味わうことができた。感謝している。追撃のろしとなった司の鮮やかなダイレクト・ミドル。シュートのこぼれ球にどん欲に詰めたヘニキの同点弾。これは、枠が見えたらシュートとばかりに、積極的に遠目から打って行った圭輔のおかげでもある。やはり、シュートを打つ。決めてやる！という姿勢が大事。本当に勝ってよかった。やっぱり、ホームでの勝利は格別だ。いろいろツッコミどころの多い試合だったけど、車の中でナザリト・チャントを歌いながら帰れるから、今夜はヨシとしところ（笑）。（ぐん、）

●正直言って1-3になった時は負けを覚悟したゲームでした。でもよく追い付いて逆転できたなあ。なんかいつも愛媛とやる時は、塩試合が撃ち合いの印象が強くて（笑）。開幕からここまで出ずっぱりだった高地を休ませる事ができた上でのこの勝利は大きかったですね。台風の影響でスポンサーバナーもダンマクもない、ゲーフラの掲出や大旗振りの禁止などいろんな制約があった中での試合は、どこか新鮮な光景ではありましたね。（岐阜の誇り）

【第27節】群馬 2-2 岐阜

●いや〜、まさの前節・愛媛戦を反転させたような試合。全く以て納得できかねる結果。相手からのプレゼント・ゴールのサービスまであってコレだからね。ボクにとっては、今季で一番脱力感のある試合にと言っても過言ではない。なぜ、なぜアディショナルタイムの、それもまもなく終了という場面でゴールを目指したのか？1点差でも2点差でも勝ち点に差がつくワケじゃない。しかも、終盤は守備陣に溜まった疲労感の明らかなった。「キープしてくれ……」が後ろの気持ちだと見ていたんだけどね。同点にされた後のキックオフと、ほぼ同時に終了の笛が鳴ったんだから、ホントにあとワンプレーかツープレー程度の時間しか残ってなかったことは容易に想像がつく。しかも、同点ゴールを決めたのが長期負傷明けでベンチ入りしていたエースとくれば、群馬にとっては「勝ちに等しい引き分け」。うちにとっては「負けに等しい引き分け」というか、イイ引き立て役になってしまった。まあ、群馬にはこの余勢を駆って、上位進出を争う他のクラブを蹴落とししてもらいたい（笑）。

それにしても、もったいない。実にもったいない試合だった。しかし、それは選手だけのせいじゃないかもしれない。うちの選手がボールを持った時点でゴールを要求するような雰囲気（霧）がゴール裏にあった……と言えなくもない。そんな中で「キープ！」と叫んでみたが、もちろん届くハズもない。冒頭に「一番の脱力感」と書いたけど、同時に一番の無力感を覚えた試合でもあった。リスクマネジメントというか、ゲームマネジメントというか。甘い。ホント、甘い。まだまだ。全く以て、まだまだだと思いついた試合だった。悔しい。とても残念。

え？5戦連続負けなし？5試合で勝ち点11……？スゴイやん（爆笑）じゃあ、今日みたいな試合をキッチリ勝ち切った日にゃ（以下略）（ぐん、）

【第28節】福岡 1-0 岐阜

●まるで梅雨のようにねっとりとした空気の中で行われた試合は、開始早々のゲームに入り切れていないような固さの中で、当たり損ないのシュートがコロコロとゴールに転がり込んで、それが決勝点。自分の頭の中にはそんなイメージしか残っていません。録画で確認したら、きっちり意図のあるプレーをした結果のようなので福岡をホメるべきでしょうか？ボク自身も試合にまだ入っていなかった証拠ですかね。その後は双方にチャンスも決定機も、そしてミスもあり、メインやバクスタから第三者的な立場で観戦されている方には、それなりに楽しめたん試合だったんじゃないかな？と思います。でも、負けたチームのサポから見たら、チャンスは作れたけどシュートミスとか、ラストの連携ミスのオンパレードな試合でした。ナザリト、遠藤の両FWにとっては受難の日と言えるでしょうか？こういう試合をできるだけ少なくして欲しいですね。ここ五試合負けなしだったので「もしかししたら、8月は負けなしで行くかも？」と少なからず期待していましたが、あえなく今月初めての敗戦となってしまいました。ただ、それもやむなしという内容の試合でしたね。ある意味、いちばん印象に残ったのは福岡のアディショナル・タイムでのボール・キープ。いや〜、実に憎たらしくもイヤラシイ時間稼ぎ。前節のどこぞのチームとのコントラストが鮮やかでした（苦笑）。「ボールを奪われなければ失点しない。」あたりまえのことですよ。

とはいえ、ここ二年のこの時期のことを思えば、ゼイタクな話。「隔世の感」という思いがしてきます。つい、この間のことなんです。そうそう、移籍後即スタメンという感じの森勇介。本職の右サイドではなく、左WBでの出場でしたが無難に務めていた、という印象です。惜しいシュートがあって、アレを決めてくれたら……とも思いますが、なかなかウマイ具合にはいかないもんですね。右サイドでの彼の活躍を見たいと思うんですが、今のうちには司がいます。彼は、今のうちのキーマン。はたして、二人の共存はありや？なしや？高いレベルでの競争も見ものではあります。次節が楽しみ……、あ、勇介はベンチにも入れないんでしたっけ。そういう条件でのレンタルとはいえ残念ですねえ。（ぐん、）

今年も8月28日がやって来ました。

ユースチームは試合の際、ベンチに一枚のユニフォームを掲げている。その番号は「13」。
2010年8月28日、現在のジュニアユースが遠征帰りにチームで海水浴をした際、所属していた桐山周也君が溺れて帰らぬ人となった。彼が付けていた番号が13番であり、それからチームの永久欠番になりました。
あらためて桐山周也君の冥福を祈り、二度と同じようなことを起こさないように誓いたいと思います。（シュナ）